

科目名	パソコン演習 I			方法	演習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	30時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	パソコンの基本的な使い方、キーボードによる文字入力をマスターする。				
学習目標 (到達目標)	Wordによる文書作成が出来るようにする。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット Word2021クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	PCの基本的な操作		PCの基本操作(フォルダ管理、文書の保存等)		
2	Wordの基本的な操作		Wordの説明、基本操作		
3	文字の入力と編集の基本操作		キーボードによる文字入力と編集の操作		
4	文書の編集		文書編集の基本操作		
5	練習問題		問題集より出題		
6	文書の作成		文字入力、文書の作成、編集		
7	模擬問題1		問題集より出題		
8	模擬問題1		問題集より出題		
9	模擬問題2		問題集より出題		
10	模擬問題3		問題集より出題		
11	模擬問題4		問題集より出題		
12	模擬問題5		問題集より出題		
13	模擬問題6		問題集より出題		
14	模擬問題7		問題集より出題		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	各事業所で指導経験あり				

科目名	パソコン演習Ⅱ			方法	演習
担当教員	伊藤 由美子		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	30時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Excel2010を利用し、表計算能力を身につける。				
学習目標 (到達目標)	サーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験3級」の合格を目指す。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	ウイネット Excel2021クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本操作、データの編集		クイックマスター、Chapter1, 2		
2	Excelの表の編集、ブックの印刷		クイックマスター、Chapter3, 4		
3	グラフと図形の作成、ブックの利用と管理		クイックマスター、Chapter5, 6		
4	関数、データベース機能		クイックマスター、Chapter7, 8		
5	練習問題1, 2		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
6	練習問題3, 4		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
7	練習問題5, 6		各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
8	検定試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	各事業所で指導経験あり				



科目名	ホームルームⅡ			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	14時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 卒業論文作成、研究 2. 英語スキルの習得(スタディサプリを用いた授業展開)				
学習目標(到達目標)	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ディクテーション/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
2	ディクテーション/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
3	ディクテーション/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
4	シャドーイング/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
5	シャドーイング/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
6	シャドーイング/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
7	シャドーイング/卒業論文		スタディサプリENGLISH		
8	卒業論文				
9	卒業論文				
10	卒業論文				
11	卒業論文				
12	卒業論文				
13	卒業論文				
14	卒業論文				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	実用英語 I			方法	講義
担当教員	長谷川 力		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	国際化が進み英語力が問われるため、基本的な英語力を習得する。英語に親しむ、慣れる、会話ができるようになる。ゲームや音楽などを取り入れながら進める。				
学習目標 (到達目標)	日常英会話ができる。ウィンタースポーツでコミュニケーションを図れるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Introduction,check students level.Practice reading questions and answering questions		print		
2	Introduction verbs and the past tense,as well as verb conjugation.How to change from present tense to past tense.		print		
3	Verbs-continuous/future tense.Also introduce present perfect tense.		print		
4	Adjectives Asking questions/giving advice		print		
5	Body Parts/Health Describing Interests/Hobbies		print		
6	Review:adjectives,verbs Practice making questions		print		
7	Directions & Locations		print		
8	Restaurant English English for Everyday Life		print		
9	Reading passages,understanding through reading Speaking practice		print		
10	Airport English Meeting people		print		
11	Airport English Meeting people		print		
12	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
13	Shopping Listening practice		print		
14	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	実用英語Ⅱ			方法	講義
担当教員	長谷川 力		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	国際化が進み英語力が問われるため、基本的な英語力を習得する。 英語に親しむ、慣れる、会話ができるようになる。ゲームや音楽などを取り入れながら進める。				
学習目標 (到達目標)	日常英会話ができる。ウィンタースポーツでコミュニケーションを図れるようになる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配付資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Introduction,check students level.Practice reading questions and answering questions		print		
2	Introduction verbs and the past tense,as well as verb conjugation.How to change from present tense to past tense.		print		
3	Verbs-continuous/future tense.Also introduce present perfect tense.		print		
4	Adjectives Asking questions/giving advice		print		
5	Body Parts/Health Describing Interests/Hobbies		print		
6	Review:adjectives,verbs Practice making questions		print		
7	Directions & Locations		print		
8	Restaurant English English for Everyday Life		print		
9	Reading passages,understanding through reading Speaking practice		print		
10	Airport English Meeting people		print		
11	Airport English Meeting people		print		
12	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
13	Shopping Listening practice		print		
14	Asking Questions Making Friends,Chit-chat/small talk		print		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	コンディショニング I			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識(身体やケガの知識)を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。 パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。</p>				
学習目標(到達目標)	スポーツ医学検定資格取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト2・3級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	解剖学・バイオメカニクス(人体の特徴と名称)①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
2	解剖学・バイオメカニクス(人体の特徴と名称)②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
4	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	熱中症について		熱中症基礎知識、水分補給		
6	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事(栄養、処置、リハビリ)		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事(栄養、処置、リハビリ)		
8	怪我の種類と特徴について		各部位のトレーニング方法、セット法		
9	怪我の種類と特徴について		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
10	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
11	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
12	スポーツカルチャー		オリンピックのはじまり など		
13	障がい者スポーツについて		パラリンピック、デフリンピック、ルール等		
14	試験対策				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%(試験60点以下の場合追試対象) 平常点40%(学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				





科目名	スケートボード I			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	168時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法		アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③		ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④		足裏センサー測定(1回/月)ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤		ライセンス検定		
6	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技①		ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技②		ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技③		足裏センサー測定(1回/月)		
11	前期スケートボード実技④		ライセンス検定		
12	前期スケートボード実技⑤		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
13	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
14	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定(1回/月)ライセンス検定		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				



科目名	スケートボードⅡ			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	168時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法		アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③		ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④		足裏センサー測定(1回/月)ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤		ライセンス検定		
6	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技①		ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技②		ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技③		足裏センサー測定(1回/月)		
11	前期スケートボード実技④		ライセンス検定		
12	前期スケートボード実技⑤		足裏センサー測定(1回/月)、ライセンス検定		
13	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
14	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定(1回/月)ライセンス検定		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				



科目名	イベントプランニング I			方法	講義
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボードビジネス スケートボードビジネス	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	イベント企画の基礎を学び、企画書を作成。イベントを実施し運営するにあたって設定しなければならない事項を決める。イベント実施に向けて準備をしていく。				
学習目標 (到達目標)	企画書を具体的に作成し、イベント運営に向けて決定事項を決めていく。イベント実践の準備をしていく。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション・目的、目標の確認				
2	企画書の作成①(イベントの目的の設定)				
3	企画書の作成②(予算の策定による規模の設定)				
4	企画書の作成③(日程と場所の設定)				
5	企画書の作成④(プログラムの企画)				
6	各種手配・宣伝、広報				
7	企画の最終打ち合わせ				
8	夏のイベントの反省・冬のイベントの企画口				
9	企画書の作成①(イベントの目的の設定)				
10	企画書の作成②(予算の策定による規模の設定)				
11	企画書の作成③(日程と場所の設定)				
12	企画書の作成④(プログラムの企画)				
13	各種手配・宣伝、広報				
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	イベントプランニングⅡ			方法	講義
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボードビジネス スケートボードビジネス	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	42時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	イベント企画の基礎を学び、企画書を作成。イベントを実施し運営するにあたって設定しなければならない事項を決める。イベント実施に向けて準備をしていく。				
学習目標 (到達目標)	企画書を具体的に作成し、イベント運営に向けて決定事項を決めていく。イベント実践の準備をしていく。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション・目的、目標の確認				
2	企画書の作成①(イベントの目的の設定)				
3	企画書の作成②(予算の策定による規模の設定)				
4	企画書の作成③(日程と場所の設定)				
5	企画書の作成④(プログラムの企画)				
6	各種手配・宣伝、広報				
7	企画の最終打ち合わせ				
8	夏のイベントの反省・冬のイベントの企画				
9	企画書の作成①(イベントの目的の設定)				
10	企画書の作成②(予算の策定による規模の設定)				
11	企画書の作成③(日程と場所の設定)				
12	企画書の作成④(プログラムの企画)				
13	各種手配・宣伝、広報				
14	企画の最終打ち合わせ				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	サービス接遇			方法	講義
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボードビジネス スケートボードビジネス	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要 接遇マナーを学ぶ                      目的 (前半)サービス接遇検定3級合格レベル                      (後半)サービス接遇検定2級合格進め方 実践も交えながらテキストに沿って進め、過去問題にて習得度を確認</p>				
学習目標 (到達目標)	サービス接遇検定2級取得と接遇マナーの習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実務技能検定協会・サービス接遇検定2級公式テキスト、過去問				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	サービススタッフの資質:必要とされる要件、従業要件		テキストを使用して内容を理解する		
2	専門知識:サービス知識、従業知識		テキストを使用して内容を理解する		
3	一般知識:社会常識、対人技能:人間関係		テキストを使用して内容を理解、過去問(3級)で理解度確認		
4	対人技能:接遇知識、話し方、服装		テキストを使用して内容を理解する		
5	実務技能 問題処理、環境整備、金品管理、社交業務		テキストを使用して内容を理解する		
6	総合 3級過去問		過去問(3級)を使用して理解度確認		
7	総合 3級過去問		過去問(3級)を使用して理解度確認		
8	サービススタッフとしての資質、専門知識、一般知識の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
9	対人技能の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
10	実務技能の振り返り		テキスト、過去問(2級)を使用して理解度確認		
11	検定対策1		過去問題を使用して出題傾向と対策		
12	検定対策2		過去問題を使用して出題傾向と対策		
13	検定対策3		過去問題を使用して主に記述対策		
14	接遇マナーの振り返り		接遇マナーの実践練習		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴			18年版売促進コーディネーターの実績、13年リテールマーケティング検定対策(3級2級)講師、実務技能検定協会主催ビジネス系検定試験面接官としての実績あり		

科目名	指導演習 I			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	42時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				



科目名	指導演習 I			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科 スケートボードビジネスコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	84時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				

科目名	指導演習Ⅱ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	42時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①		安全に留意し、実践的な演習を行う		
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②		安全に留意し、実践的な演習を行う		
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③		安全に留意し、実践的な演習を行う		
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④		安全に留意し、実践的な演習を行う		
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤		安全に留意し、実践的な演習を行う		
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥		安全に留意し、実践的な演習を行う		
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦		安全に留意し、実践的な演習を行う		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				

科目名	指導演習Ⅱ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科 スケートボードビジネスコース	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	84時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①	安全に留意し、実践的な演習を行う			
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②	安全に留意し、実践的な演習を行う			
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③	安全に留意し、実践的な演習を行う			
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④	安全に留意し、実践的な演習を行う			
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤	安全に留意し、実践的な演習を行う			
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥	安全に留意し、実践的な演習を行う			
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦	安全に留意し、実践的な演習を行う			
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①	安全に留意し、実践的な演習を行う			
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②	安全に留意し、実践的な演習を行う			
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③	安全に留意し、実践的な演習を行う			
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④	安全に留意し、実践的な演習を行う			
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤	安全に留意し、実践的な演習を行う			
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥	安全に留意し、実践的な演習を行う			
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦	安全に留意し、実践的な演習を行う			
15					
16					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)		授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。			
実務経験教員の経歴	デフリンピックコーチ				

科目名	パーソナルトレーナー			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	解剖学、運動生理学の基礎を学びトレーナー基礎知識の習得、パフォーマンス向上、トレーニングの効果性理解につなげる				
学習目標 (到達目標)	NSCA-CPTの取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版)・トレーニング指導者テキスト(理論編)・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	解剖学		関節、骨		
2	解剖学		下腿部		
3	解剖学		大腿部		
4	解剖学		腹部、背部		
5	解剖学		胸部、上腕		
6	解剖学		胸部、上腕		
7	解剖学		肩関節、首、頭部		
8	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
9	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
10	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
11	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
12	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
13	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
14	運動生理学		筋様式、筋収縮、メカニズム		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	パーソナルトレーナーⅡ			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	初回面談、トレーニングプログラムの作成、特定疾患に対する知識など応用知識を習得し、クライアントに対して面談、評価、サービスの提供ができる知識の習得を行う。				
学習目標 (到達目標)	NSCA-CPTの取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版)・トレーニング指導者テキスト(理論編)・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	初回面談				
2	初回面談・測定				
3	トレーニングエクササイズ				
4	トレーニングエクササイズ				
5	トレーニングプログラム				
6	トレーニングプログラム				
7	トレーニングプログラム				
8	トレーニングプログラム				
9	特定疾患プログラム				
10	特定疾患プログラム				
11	法律				
12	試験対策				
13	試験対策				
14	試験対策				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				



科目名	マーケティング			方法	講義
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科スノーボードビジネスコース	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要 スポーツ経営学基礎で習得した知識を形として残す、ビジネスマナー、コミュニケーション				
学習目標 (到達目標)	リテールマーケティング基礎知識、信頼される人柄育成				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	小売業の類型対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
2	マーチャンダイジング対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
3	ストアオペレーション対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
4	マーケティング対策		テキストを使用して出題傾向と対策。		
5	検定対策1		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
6	検定対策2		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
7	検定対策3		模擬問題を使用して出題傾向と対策		
8	ビジネスマナー講座 社会人としての基本		マナー講座テキストを使用し、社会人の心得、マナーの必要性の確認		
9	ビジネスマナー講座 挨拶、振る舞い、身だしなみ		マナー講座テキストを使用し、挨拶、振る舞いの実践		
10	ビジネスマナー講座 話し方、聞き方、言葉遣い、		マナー講座テキストを使用し、話し方、聞き方言葉遣いの実践		
11	ビジネスマナー講座 職場に必要なマナー		マナー講座テキストを使用し、具体的なマナーの実践		
12	ビジネスマナー講座 来客対応、訪問時のマナー		マナー講座テキストを使用し、来客対応、訪問時のマナーの実践		
13	ビジネスマナー講座 電話対応		マナー講座テキストを使用し、電話対応の実践		
14	ビジネスマナー講座 冠婚葬祭のマナー		マナー講座テキストを使用し、冠婚葬祭のマナーの確認		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%(試験60点以下の場合追試対象) 平常点40%(学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、13年リテールマーケティング検定対策(3級2級)講師、実務技能検定協会主催ビジネス系検定試験面接官としての実績あり				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	映像			方法	講義
担当教員	関 亮太		実務授業の有無	無	
対象学科	スノーボード・スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	映像に関する基礎知識と撮影に関する実技を学ぶ。教科書や資料を使い映像とはどんなアプローチかを知り、実際にカメラを使った実技を通して、生徒自らが企画構成から実際の映像発信まで出来る事を目指します。基本的には実技経験が必要なため一回の授業2コマを「座学1コマ」+「実技1コマ」の形で進めます。撮影の題材は自分たちの学びのスケートボード、スノーボードや学校紹介も含めSNS、YouTube発信にも挑戦していきます。				
学習目標 (到達目標)	生徒達自ら映像の企画構成をし学校から発信する映像メディアの構築と運用ができることを目指します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	フィルムアート社「映像クリエイターのための完全独学マニュアル」映像に関して。玄光社「映像制作モダンベーシック教本」企画構成に関して。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	座学「1.カメラを操作する」実技「スケートパークで撮影実践」		教科書を使いカメラの基礎知識を学ぶ。カメラもしくはスマホを使い実際に撮影をしながら意識するポイントを学ぶ。二人一組もしくはグループで実践予定		
2	座学「2.映像の基礎知識」実技「スケートパークで撮影実践」		カメラを回すための基礎知識を学ぶ。構図を意識した撮影を実践する。		
3	座学「3.フレームに構図を作る」実技「屋外で撮影実践」		撮影で意識する点、構図について学ぶ。二人一組もしくはグループで構図を意識した撮影を実践。		
4	座学「4.動画と映像の違いを知る。テイクとメイクとは」実技「校内で簡単なショートムービー制作」		メディア企画運営に向かい、動画と映像の違いを理解する。校内で簡単な企画動画を撮影する。		
5	座学「5.光と照明について」実技「校内で照明を使ったインタビュー映像撮影」		カメラが捉える光の基本について学ぶ。光をコントロールする基礎知識を実践する。		
6	座学「6.映像を編集をするという事」実技「映像編集ソフトを使い編集」		編集についての基礎知識を学び、実際にこれまで撮影した素材を編集してみる。		
7	座学「7.YouTube.instagram企画構成」座学「自分達で考えた企画を形にする」		発信する題材を決めて実際に運営していく運営を立てていく。スケートパークの壁画アートを取材する企画を立てる。実際に自分たちで活動を発信していく。		
8	座学「8.SNSはどう発信するべきか」実技「学校の広報をしてみよう」		SNSを活用して、学校での活動とスケートボード、スノーボードを発信していく。実際に撮影編集を行い広報をする。		
9	座学「9.カメラワークを知る」実技「カメラワークを使った表現に挑戦する」		ジンバル、スライダーなど表現の幅を広げる、カメラワークを知り活かしていく。		
10	座学「10.YouTube.instagram企画構成を学ぶ」座学「自分達で考えた企画を形にする」		アイデア出しをして自分たちで企画と構成を行う。ストーリーや題材を自ら考えて発信していく。		
11	座学「11.音について学ぶ、SEやナレーションとは！？」		映像に必要な不可欠な音について学びます。		
12	座学「12.映像におけるカラーとは」座学「変種ソフトを使い映画のようなカラーを作ってみる」		映像に必要な不可欠な音について学びます。		
13	実技「13.学校紹介PVを作成しよう」		自分たちの学校を魅力的に発信していきます。		
14	座学「14.YouTube.instagramの発信」実技「題材に沿って企画を運営していく伝える」		映像を通して制作を日常化する。仕事としての映像を学んでいく		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					



国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	業界論			方法	講義
担当教員	滝沢 光・藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スノーボード学科・スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	前期:スノーボード業界の特色や仕組み、構造等を学習する。 後期:スケートボード業界の特色や仕組み、構造等を学習する。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード業界に対する知識の習得、実習時の経験値及び実務実績の構築 スケートボード業界に対する知識の習得、実習時の経験値及び実務実績の構築				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料・映像資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スノーボードの成り立ち及びウィンター産業の成り立ち				
2	商品、製造分野の仕組み		資料、データ学習		
3	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
4	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
5	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
6	現場研修		実際の現場にて研修		
7	現場研修		実際の現場にて研修		
8	スケートボードカルチャーの成り立ち		映像資料		
9	スケートボード産業の成り立ち		映像資料		
10	スケートボードギアの移り変わり		映像資料		
11	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
12	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
13	ユーザ及びウィンター産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
14	現場研修		実際の現場にて研修		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年、デフリンピックコーチ				

科目名	業界論			方法	講義
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの歴史、スケートボードカルチャーを学ぶ。 スケートボード業界の特色や仕組み、構造等を学習する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボード業界に対する知識の習得、実習時の経験値及び実務実績の構築				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料・映像資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スケートボードカルチャーの成り立ち		映像資料		
2	スケートボードカルチャーの変革		映像資料		
3	スケートボードギアの基礎		映像資料		
4	スケートボードギアの移り変わり		資料、データ学習		
5	ブランド、プロダクトなどの企画分野の仕組み		資料、データ学習		
6	各ブランド、各プロダクトなどの特色		資料、データ学習		
7	現場研修		実際の現場にて研修		
8	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の仕組み		資料、データ学習		
9	販売店、ECサイトを含む販売ツール等の特色		資料、データ学習		
10	スケートボード業界の仕組み		資料、データ学習		
11	スケートボード業界を取り巻く環境		資料、データ学習		
12	ユーザ及びスケートボード産業の流行に対する戦略及び仕組み		資料、データ学習		
13	スケートボード業界の問題と課題		資料、データ学習		
14	現場研修		実際の現場にて研修		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手12年目・スノーボード選手育成歴9年、デフリンピックコーチ				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	トレーニング I			方法	実技
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上、基礎トレーニングスキルの獲得				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。BIG3、基礎トレーニング方法の習得。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編)・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎体カトレーニング				
2	基礎体カトレーニング				
3	基礎体カトレーニング				
4	ウェイトトレーニング				
5	ウェイトトレーニング				
6	ウェイトトレーニング				
7	ウェイトトレーニング				
8	セルフケア				
9	セルフケア				
10	コンディショニング				
11	コンディショニング				
12	障害予防トレーニング				
13	障害予防トレーニング				
14	障害予防トレーニング				
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。	
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	トレーニングⅡ			方法	実技
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科トップアスリートコース	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上、基礎トレーニングスキルの獲得 BIG3、パワーエクササイズ、プライオメトリクステクニックの習得				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。BIG3、基礎トレーニング方法の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編)・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎体カトレーニング				
2	基礎体カトレーニング				
3	基礎体カトレーニング				
4	ウェイトトレーニング				
5	ウェイトトレーニング				
6	ウェイトトレーニング				
7	ウェイトトレーニング				
8	パワーエクササイズ				
9	パワーエクササイズ				
10	SAQトレーニング				
11	SAQトレーニング				
12	SAQトレーニング				
13	プライオメトリクス				
14	プライオメトリクス				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	スケートボード実習 I			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	80時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。 実習場所：村上市スケートパーク				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要			宿泊含む	
2	スケートボード科学スタッフ検定受検			宿泊含む	
3	スケートボードデッキ制作			宿泊含む	
4	JSAライセンス検定受検			宿泊含む	
5	NTC運営演習			宿泊含む	
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。	
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	スケートボード実習Ⅱ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	80時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。 実習場所：村上市スケートパーク				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要				
2	パークマネージャー検定受検				
3	スケートボードデッキ制作				
4	JSAライセンス検定受検				
5	NTC運営演習				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。	
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

②

国際スノーボード&amp;スケートボード専門学校

科目名	業界実習 I			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	100時間
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方				
2	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
3	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
4	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
5	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
6	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
7	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
8	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
9	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
10	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

②

国際スノーボード&amp;スケートボード専門学校

科目名	業界実習Ⅱ			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	100時間
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方				
2	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
3	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
4	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
5	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
6	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
7	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
8	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
9	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
10	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					



科目名	インターンシップ I			方法	実習
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	全学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	112時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	1月～3月の春休み期間にインターンシップを行う。進路実現に向けて冬の仕事を体験する。事前に目的、背景を明確化し、インターンシップ先の決定を行う。前期期間より準備を行い、日程の調整を含め行う。様々な企業へ研修に行くことで、業界だけでなく、仕事のながれ、現在必要なスキル、改善点など多くの経験を積むことが出来る 卒業までに112時間のインターンシップ時間数が必要となる				
学習目標 (到達目標)	実践力を身につけ、業界への理解を深める				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成を行う。		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップ I			方法	実習
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	全学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	112時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	7月～9月の夏休み期間を利用しインターンシップを行い進路選択の幅を広げる				
学習目標 (到達目標)	実践力を身につけ、業界への理解を深める				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成を行う。		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
9	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
10	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	アウトドア実習			方法	実習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	24時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要: 多種目のボードスポーツ、アウトドアスポーツを学ぶ 目的: 業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方: 業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 (到達目標)	ボードスポーツに親しみ、視野を広げ知識を深める				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ウェイクサーフィン、SUP				
2	スノーボード、スノースケート				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					

科目名	イベント実習 I			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	96時間
授業形態	対面授業実施				
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ				
2	JSF主催大会運営スタッフ		2大会		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	イベント実習Ⅱ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	96時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ		事前指導		
2	JSF主催大会運営スタッフ				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	日本語コミュニケーション			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	全学科	対象学年	1学年	開講時期	特別
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	12時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	コミュニケーション基礎を学び、インターンシップ、就職活動に必要な知識・技術の獲得を行いコミュニケーション検定初級取得に向けて勉強を行う。 聞く、話すことの重要性理解、ビジネス分野において必要な言葉遣い、作法を含めた理論編電話応対やビジネスマナーなどの実践編の2部構成にて授業を進めていく。				
学習目標 (到達目標)	コミュニケーション基礎能力の構築 コミュニケーション検定初級合格100%				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	コミュニケーション検定 初級対策テキストコミュニケーション技法				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	コミュニケーションを考える、聞く力、話す力、接客応対			コミュニケーション検定初級対策テキストP2～P43	
2	電話応対、アポイントメント、接客クレーム対応、模擬テスト①			コミュニケーション検定初級対策テキストP44～83	
3	模擬テスト②				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					



科目名	チームビルディング研修			方法	演習
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	全学科	対象学年	1学年	開講時期	特別
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	16時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	人間関係の構築、マインドセット、意識づけを目的としたチームビルディング NSGカレッジリーグ学生間交流				
学習目標 (到達目標)					
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	チームビルディング研修				
2	NSGカレッジリーグ学生間交流				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					



科目名	企業研修 I			方法	講義
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	18時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要: 業界の最新情報や職業観を獲得する 目的: 業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方: 業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 (到達目標)	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	グローバルメーカー講話				
2	ショップ経営、起業				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。	
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅱ			方法	講義
担当教員	大友 秀樹		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	18時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要: 業界の最新情報や職業観を獲得する 目的: 業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方: 業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 (到達目標)	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	グローバルメーカー講話				
2	ショップ経営、起業				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上)B(優 70点以上) C(良 60点以上)D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴					



